

2020年に向けた文化イベント等の在り方検討会のこれまでの審議経過と今後の予定について

2015年4月

第1回 12月17日(水)

文化庁等より2020年オリンピック・パラリンピック東京大会及びその後を見据えての文化政策等について説明、各委員によるコメント

第2回～第4回 委員からの提案

2020年に向けて魅力ある文化イベント等を全国展開するための**具体的なアイデア**について委員により御提案

第2回 2月4日(水) 発表者とテーマ

- 吉本委員: 2020年東京五輪文化プログラムに関するいくつかのアイデア
- 池坊委員: 2020年に向けた文化イベント等の在り方について
- 増田委員: 世界をリードする文化発信地「ポップカルチャー特区」
- アトキンソン委員: イベントの発掘に関して
- ヤノベ委員: 《太陽の島ー五輪亀島》ー五輪人工島プロジェクト(仮)ー

第3回 3月5日(木) 発表者とテーマ

- 鎌田委員: モノがつなぐ文化～スーベニア戦略～
- 金森委員: 劇場文化100年構想～オリンピック文化プログラムに寄与する、劇場文化の在り方
- 小山委員: 2020年に向けた文化イベント等の在り方検討会ご提案
- 佐藤委員: 共通テーマを設けて、「公募」と「指名」の両方で実施するプログラムの提案
- 紫舟委員: 2020年に向けてーオリンピックへの提案及び国の新システムを創る提案ー
- 名和委員: 2020 TOKYO OLYMPIC ART&CULTURAL PROGRAM

第4回 4月22日(水) 発表予定者とテーマ

- 蛭川委員: Toward the year of 2020 2020年に向けて
- 大西委員: 文化イベントに対するアイデア
- セーラ委員: オリンピックで伝統の復活を図る
- 関口委員: 「全員五輪！」2020に向け、障害児・者を本気にさせる

「2020年に向けた文化イベント等の実施構想」※を作成

※2020年に向けた文化イベント等を実施する上での文化庁としての基本構想であり、①2020年に向けたの目標・理念・コンセプト、②文化庁が主導する文化イベント等を実施する上での手順・枠組み・スケジュールのイメージ等を記載する予定。

検討会委員の協力を得ながら、具体的なアイデアを実践

2020年に向けた文化イベント等の在り方検討会(第1回～第3回) での主な御意見

1. 2020年に向けた文化イベント等を実施する上での基本的視点

○2020年に向けた文化イベント等の目標・理念について

- ・日本の文化を再発見し、世界に発信する。
- ・国際的なコラボレーションを推進する。
- ・東京や日本だけを表現するのではなく、世界中の人々へ向けてのメッセージを発信する。
- ・あらゆる人々（特に、若者、子供、高齢者、障害児等）が文化活動を通じて、オリンピック・パラリンピックに参加できる機会を作る。
- ・これまで文化に興味がなかった人たちを巻き込む。
- ・スポーツと文化に支えられた超高齢化社会を迎える新しい成熟社会のモデルを提示することを目指す。
- ・成果目標の明確化を図り、具体的な指標を定める。

○実施に向けての体制・枠組み等について

- ・アーティストが思い描く突拍子もないことが、ある程度現実化できるような、面白い仕組みを作る。
- ・共通テーマを設けて、全国の方々からプロフェッショナルなアーティストまでが参加できるような枠組みをつくる。
- ・新しいパートナーシップの構築を推進する（官民連携、NPOや芸術団体との連携、中央と地方の連携、地域間の連携等）
- ・中央で全て決めるのではなく、地域や個人の積極的な取組を推進し、日本全国津々浦々が盛り上がる仕組み等をつくる。
- ・モデル地区をつくり、そこを起点として全国に広げる取組を行う。
- ・文化庁が窓口となって、全国の自治体や芸術団体、民間企業等と連携して盛り上げていく体制を整備する。
- ・実施される文化イベント等についてエンブレム等をつけて統一性を図る。

○その他（実施に当たって留意すべき事項について）

- ・訪日外国人旅行者の様々なニーズに対応した環境整備を推進する。
- ・日本の伝統文化・工芸等の技術の継承が確実に行われる機会とする。
- ・これまでできなかったような斬新なアイデアが生まれるような雰囲気づくり・環境づくりを行う。
- ・企業が文化に資金を提供しやすくなるような環境をつくる。
- ・地方の劇場や文化施設において地方発信の文化が生まれるような環境を整備する。
- ・文化や観光を推進していく上でボトルネックとなっている点を掘り起こしていく。
- ・訪日外国人旅行者を増やすためには、年に1回大きなイベントを行うだけでなく、日常的にイベント等が行われることを目指す。
- ・地方の文化等にデザインで付加価値をつけて国内外に発信する取組を推進

する。

- ・ 全国で実施される文化イベント等について文化庁が取りまとめて国内外に発信する仕組みを整える。
- ・ 伝統的な生活文化を継承していくために、学校現場と連携した取組を推進する。
- ・ 優秀なコンテンツをアーカイブとして保存し、将来、誰でも閲覧できるようにする。
- ・ 文化を社会で支えるために、教育、顕彰、税制、雇用において新しいシステムやルール等をつくる。

2. 2020 年に向けた文化イベント等の具体的なアイデアについて

～これまでに御提案頂いたアイデアについては、委員の御協力も得ながら具体化に向けて検討を行う。

- ・ 「アートサイト日本 2020 without TOKYO」全国各地の文化的リソース 2020 件（各都道府県約 40 件）を選出し、世界にアピール
- ・ 「クリエイティブ・フロント東京/日本」国内外のアーティストに新作委嘱を大々的に実施
- ・ 「日本人は皆アーティストだ！」1000 万台のピアノ演奏、250 万人の歓喜の歌、日本縦断 BON DANCE
- ・ 「守破離」をキーワードとした文化イベント
- ・ 世界をリードする文化発信地「ポップカルチャー特区」
- ・ 《太陽の島－五輪島》－五輪人工島プロジェクト（仮）－：文化施設を内包した亀型の人工浮島（メガフロート）を制作し、全国を周遊
- ・ 地方にある日常のモノ（農林水産物、文房具等の地域商品）をスーベニアにすることにより地元の産業や農業を育成
- ・ 常勤の芸術監督及び劇場専属集団をもつ「創造発信型」劇場への重点支援を通じて、地域独自の文化芸術を世界に発信
- ・ 1 シーズンで日本を 1 周、1 年に日本を 4 周する「JAPAN FURUSATO CRUISE」の提案。地域を「星」で格付けし、そのセレクトによって、四季ごとの新コースを設定
- ・ 共通テーマを設けて、「公募」と「指名」の両方で実施するプログラムの提案
- ・ 開会式や聖火台への提案、案内板を多言語表示から日本のデザインで「記号化」への提案
- ・ 「PixCell（情報化されたものたち）」「DRONE（浮遊素子）」「DASHI（山車）」「THRONE（玉座）」等をテーマとし最先端技術を活用した文化イベント等の提案